

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

1 調査日

令和7年4月17日（木）

2 調査集計対象

中学校第3学年生徒 全国 871,097名（うち江戸川区 4,416名）

3 区内実施校数

全中学校 32校

4 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

5 調査内容

（1）教科に関する調査

- 国語・数学・理科

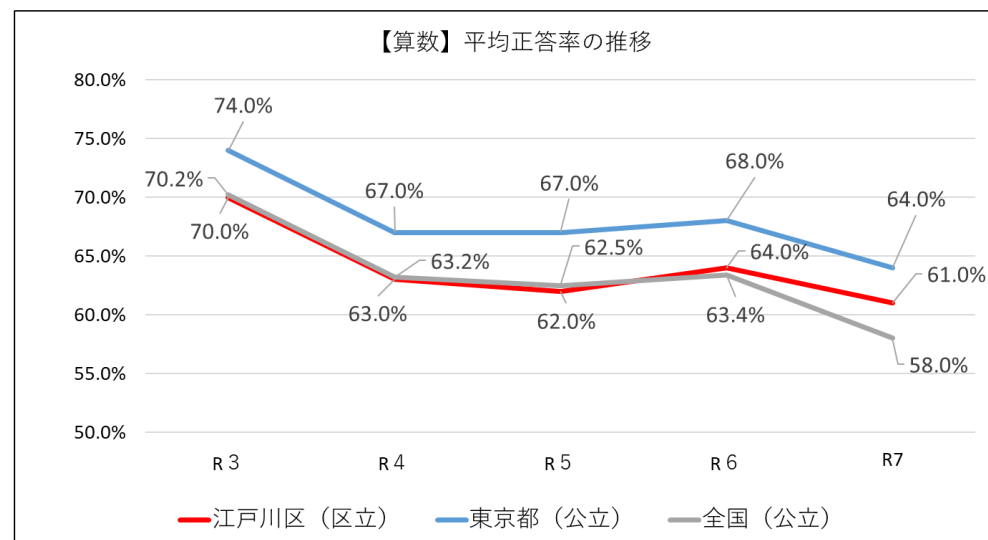
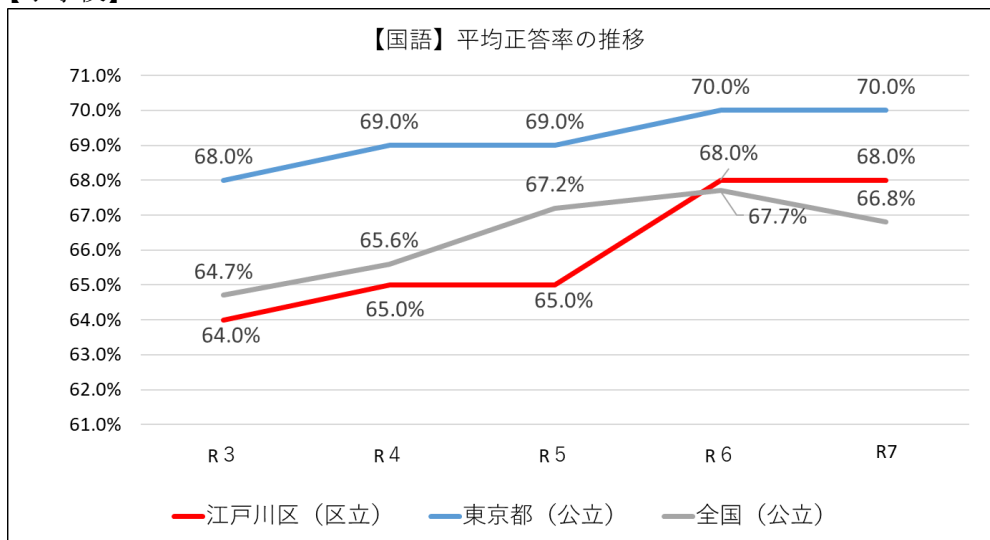
（2）生活習慣や学習環境に関する調査

- 生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- 学校質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査）

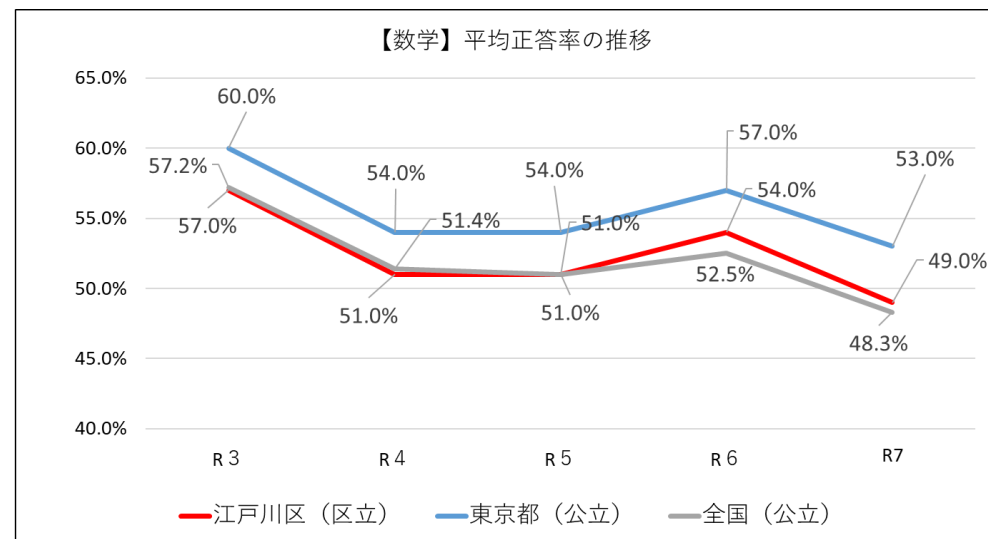
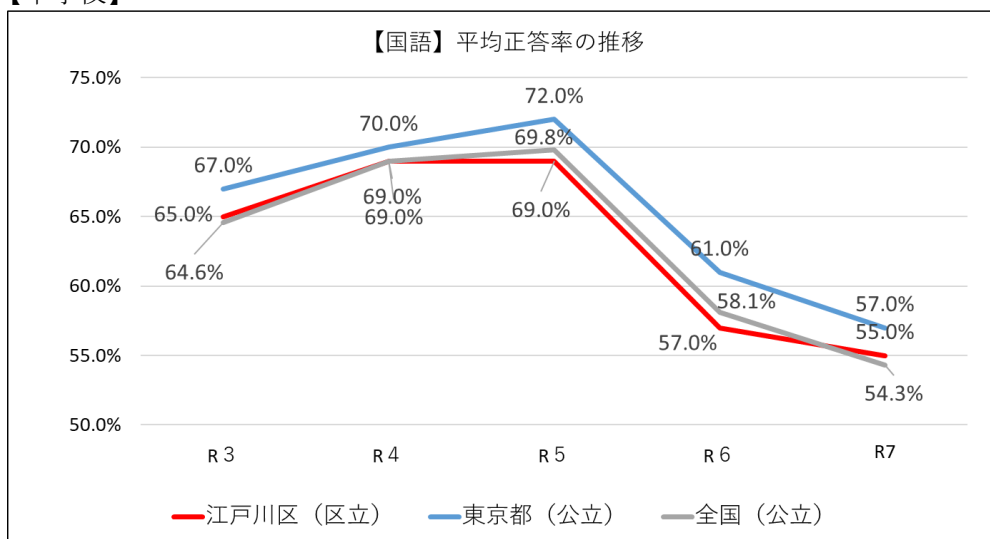
江戸川区教育委員会教育指導課

全国学力・学習状況調査 令和3～7年度における平均正答率の推移

【小学校】

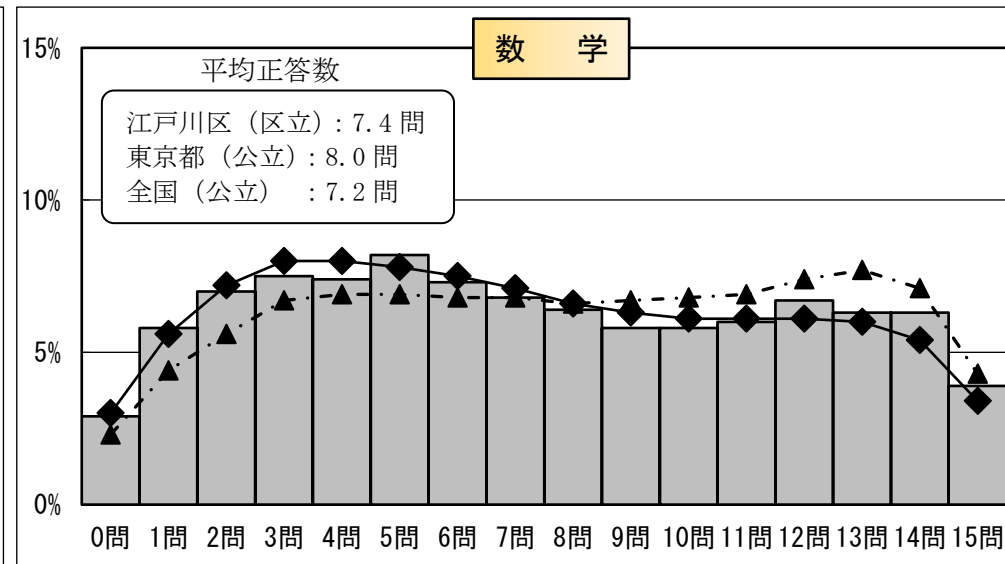
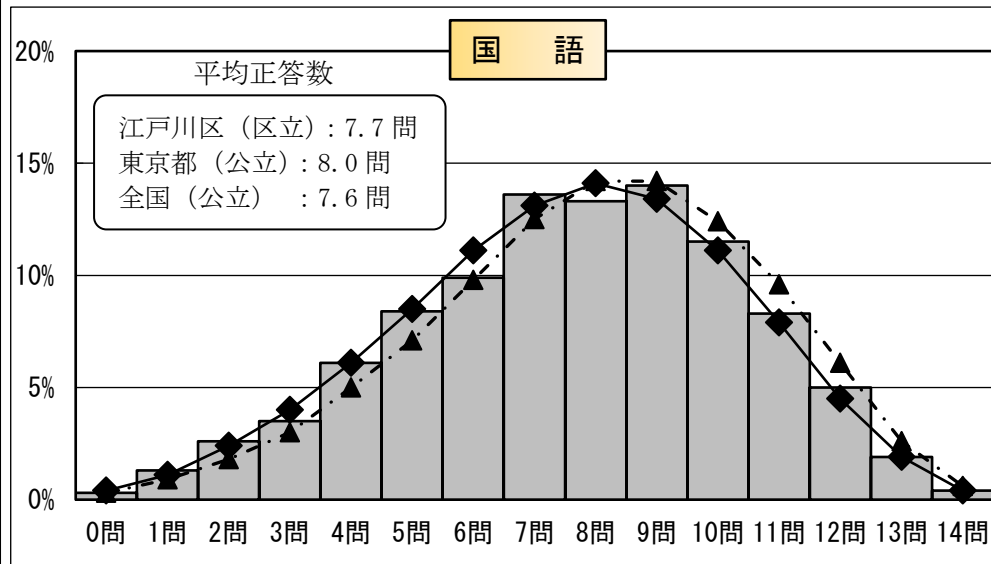


【中学校】



令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

正 答 数 分 布



<四分位における割合（都全体の四分位による）>

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

国 語	上位 ← 下位			
	A層 10～14 問	B層 8～9 問	C層 6～7 問	D層 0～5 問
江戸川区（区立）	27.1	27.2	23.5	22.2
東京都（公立）	31.2	28.4	22.3	18.1
全国（公立）	25.8	27.5	24.2	22.5

(%)

数 学	上位 ← 下位			
	A層 12～15 問	B層 8～11 問	C層 4～7 問	D層 0～3 問
江戸川区（区立）	23.2	24.0	29.6	23.2
東京都（公立）	26.5	27.0	27.5	19.0
全国（公立）	20.9	25.1	30.2	23.8

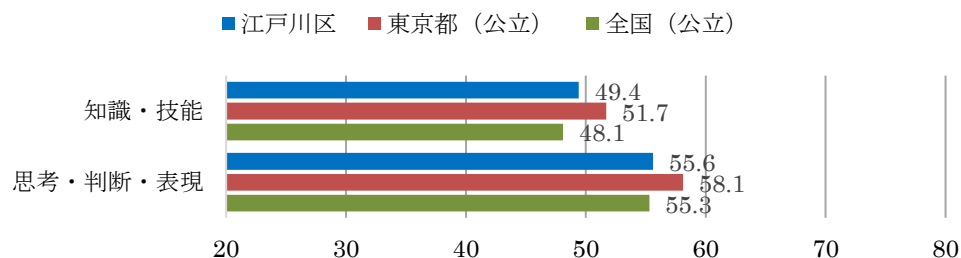
(%)

令和7年度「領域別」の結果と課題【中学校】

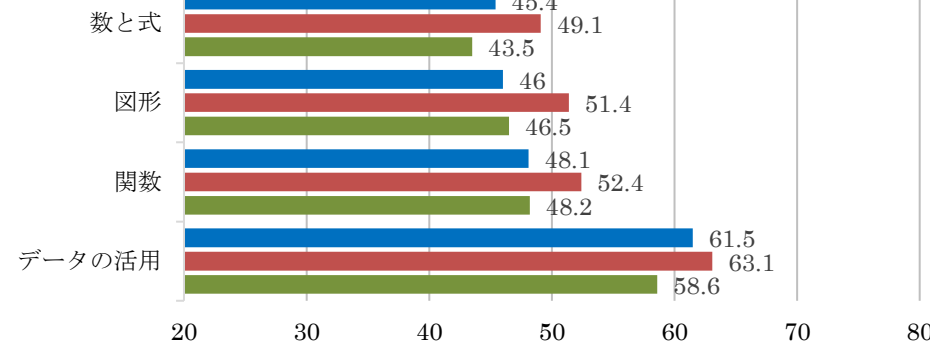
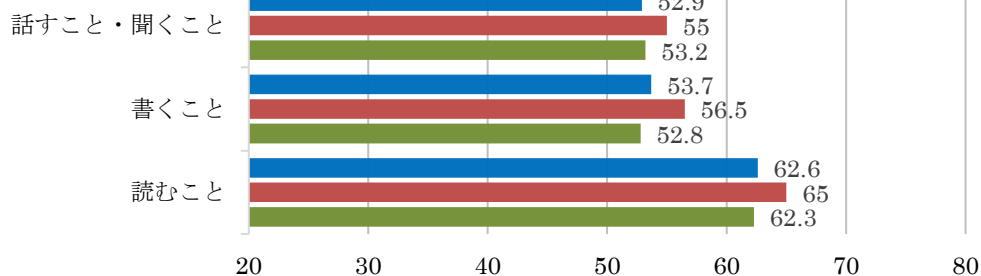
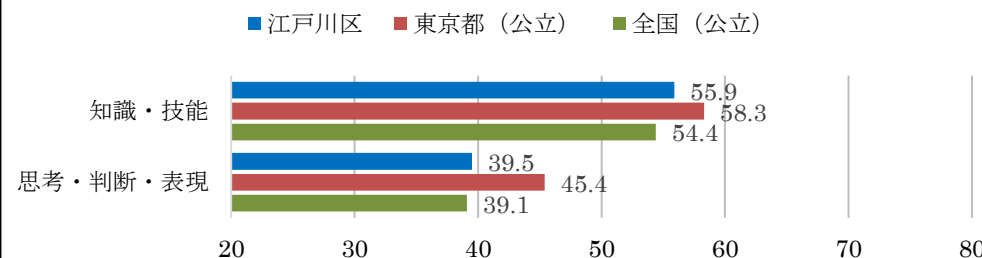
「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。

国 語



数 学



【平均正答率の差】

【全国平均、東京都平均との関係】

	国語	数学
江戸川区（区立）	55%	49%
東京都（公立）	57%	53%
全国（公立）	54.3%	48.3%
都との差	－2ポイント	－4ポイント

<全国との関係>

- 全国平均正答率について、国語は0.7ポイント上回り、数学は0.7ポイント上回った。
- 「知識・技能」において、国語の正答率は全国平均正答率を1.3ポイント、数学の正答率は全国平均正答率を1.5ポイント上回った。
- 「思考・判断・表現」において、国語の正答率は、全国平均正答率を0.3ポイント上回り、数学の正答率は、全国平均正答率を0.4ポイント上回る。

<東京都との関係>

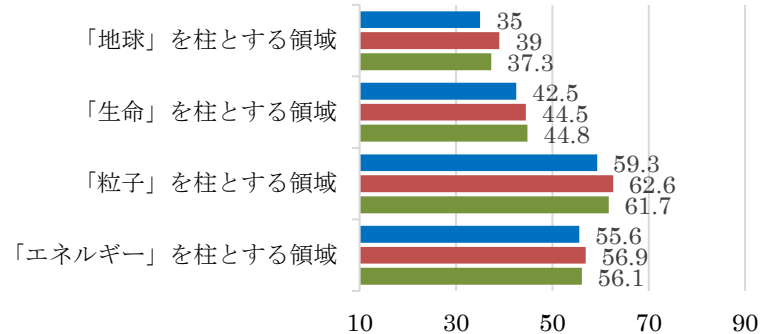
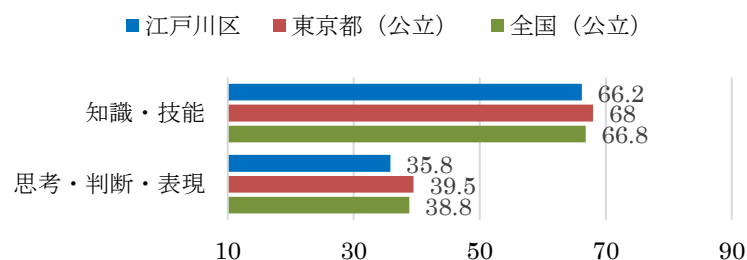
- 国語は「話すこと・聞くこと」で-2.1ポイントに対し、「書くこと」では-2.8ポイントと差が大きい。
- 数学において、他の領域に比べ、「図形」の平均正答率が-5.4ポイントと、差が大きい。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果報告【中学校】

「領域別」の結果

以下、平均正答率（％）を示す。

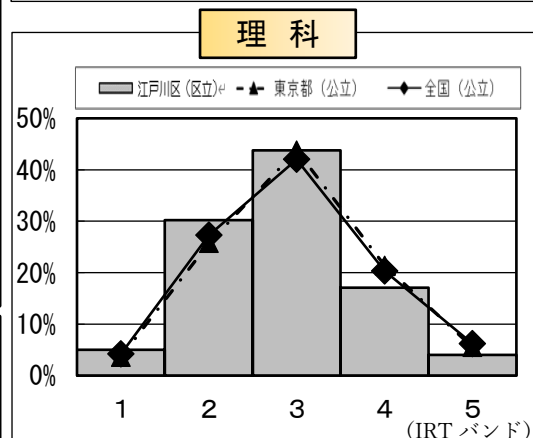
理 科



I R T バンド 分布

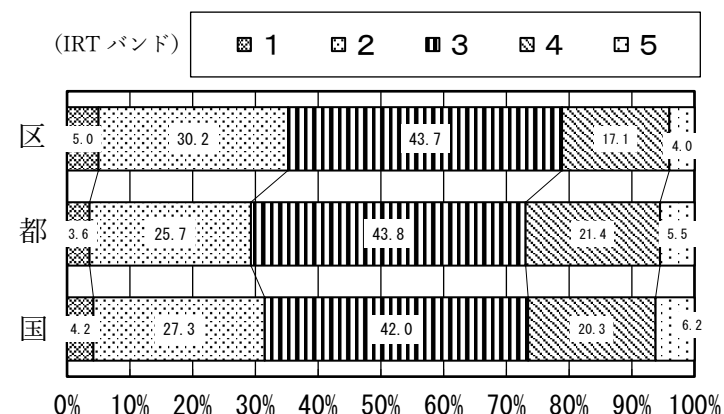
【平均 I R T スコア】 正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にして算出された生徒のスコアを足し合わせて平均をとったもの。

【I R T バンド】 各バンドの問題をおおよそ（80％の確率で）正答できる力があると推定される割合。



【平均 I R T スコア集計値の差】

理科	平均 I R T スコア (点)
江戸川区 (区立)	487
東京都 (公立)	506
全国 (公立)	503



上位 ← → 下位

理 科	IRT バンド 5	IRT バンド 4	IRT バンド 3	IRT バンド 2	IRT バンド 1
江戸川区 (区立)	4.0	17.1	43.7	30.2	5.0
東京都 (公立)	5.5	21.4	43.8	25.7	3.6
全国 (公立)	6.2	20.3	42.0	27.3	4.2

【全国平均、東京都平均との関係】

<全国との関係>

- 平均 I R T スコア集計値は、全国平均 I R T スコアに比べ-16 ポイントの差がみられる。
- 「知識・技能」が-0.6 ポイント、それに対し「思考・判断・表現」が-3 ポイントと、「思考・判断・表現」に課題が見られる。
- 「エネルギー」の領域で-0.5 ポイントに比べ、「粒子」の領域が-2.4 ポイントと差が大きい。

<東京都との関係>

- 「知識・技能」において-1.8 ポイントに比べ、「思考・判断・表現」において-3.7 ポイントと都平均正答率との差が大きい。
- 「エネルギー」の領域で-1.3 ポイントに比べ、「地球」の領域について、-4 ポイントと都平均正答率との差が大きい。

令和7年度「設問別」の結果と課題【中学校】

国語

平均正答率が全国より高い問題

1

【ちらし】

第一中学校 美術展

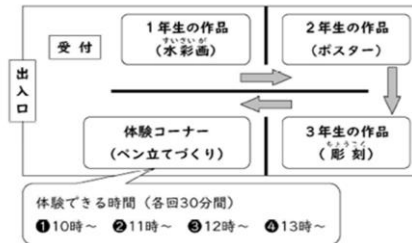
毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。
体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日時 令和7年11月15日（土） 10時～16時

場所 第一中学校 体育館

会場図



二 中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学校6年生に向けたちらしであることを示すため。
- 2 ウェブページの情報と比較しやすいするため。
- 3 会場となる体育館まで迷わずに来てもらうため。
- 4 展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

【出題の趣旨】

1 二

目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区 85.1% 東京都 86.4% 全国 82.5%

【本区のこれからの取組】

8割の生徒が目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。これまで朝学習や授業において新聞記事を活用した読解教材を活用することで、生徒の読解力を高めるとともに目的に応じて伝えるべき事柄を選択したり再構成したりできるよう指導してきた。引き続き目的に応じて「簡潔に」、「漏れなく」、「分かりやすく」書く活動を充実させ、生徒の資質・能力を育成していく。

平均正答率が東京都より低く、無解答が多い問題

4

二 三上さんは、さらに推敲を重ねようとしています。あなたなら、【手紙の下書きの一部】の、どの部分をどのように修正しますか。三上さんの修正の仕方参考にして、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 修正した方がよい部分は複数ありますが、言葉の使い方や叙述の仕方などについて、あなたが特に修正した方がよいと思われる部分を一つ選ぶこと。なお、【手紙の下書きの一部】の内容は、変わらないようにすること。

条件2 修正する際は、削除したり書き直したりしたい部分を線で消し、書き直す場合は、消した言葉の右横に、どのように直すのかを書くこと。

条件3 修正した方がよいと考えた理由を具体的に書くこと。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【手紙の下書きの一部】

先日、
さて、昨日は、私たちの職場体験活動に協力してくださり、ありがとうございました。大野さんをはじめ、お店の皆さんに親切に指導してもらい、多くの学びを得ることができました。
この体験活動をするまで、私は、生花店で働くことについて、華やかなイメージしかもっていなかったのですが、皆さんに教わりながら、一つ一つ仕入れた商品を下処理したり、葉や花びらが落ちていないように気を付けたり、花を長持ちさせる方法や言葉を勉強したりすることを通して、華やかさの要には、それを超える作業や専門的な知識があることを知りました。

【出題の趣旨】

4 二

読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区 29.3% 東京都 34.2% 全国 30.1%

【無解答率】

江戸川区 20.0% 東京都 15.9% 全国 19.1%

【本区のこれからの課題】

推敲の際に、削除したり書き直したりしたい部分を見付けて、適切に修正したり、修正した方がよい理由を適切に述べたりすることに課題がある。

自分の書いた文章について、読み返したり他者と意見交換したりして推敲する機会を充実させる必要がある。

令和7年度「設問別」の結果と課題【中学校】

数学

平均正答率が都より高い問題

- 5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録

階級(m)	度数(人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

【出題の趣旨】

5

不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

【正答率】江戸川区 52.4% 東京都 47.6% 全国 42.5%

【本区のこれからの取組】

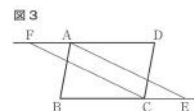
相対度数の意味を理解している生徒が全国・都の平均と比べて多い。誤答では、階級の相対度数と階級の度数を混同したり、最小の階級から20m以上25m未満の階級までの累積度数を求めたりする傾向が見られた。

単元別検定・総合検定を行うことで、生徒の習熟度に合わせ基本的な知識・技能の定着を図り、問題文を読み解いて解決する力を育成してきた。今後はさらに、既習内容や日常生活と関連させながら、不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面を設定し、用語の意味の理解を促すとともに相対度数等を用いて、データの分布の傾向を捉え、説明できるよう指導していく。

平均正答率が東京都より低く、無解答が多い問題

9

- (3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
 よって、 $FA \parallel CE$ ……①
 平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
 仮定より、
 $DF = BE$ ……③
 ②、③より、
 $DF - AD = BE - BC$ ……④
 ④より、
 $FA = CE$ ……⑤
 ①、⑤より、
 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
 四角形FCEAは平行四辺形である。

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

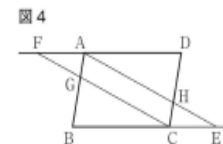


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

【出題の趣旨】

9 (3)

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。

【正答率】

江戸川区 32.2% 東京都 39.1% 全国 33.2%

【無解答率】

江戸川区 35.2% 東京都 27.9% 全国 31.5%

【本区のこれからの課題】

条件を変えた場合について、元の証明を振り返り、証明の一部を書き直すことに課題がある。条件を変えた証明について共通する性質を見いだして統合的・発展的に考察する機会を設定していく。

また、仮定からわかる事柄や結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、推論の過程を数学的に表現できるよう、さらに指導を充実していく。

令和7年度「設問別」の結果と課題【中学校】

理科

平均正答率が東京都と同等である問題

3

理科の授業で温度を学習し、教室に設置している温度計の仕組みに興味をもち、科学的に探究しています。
 (1)、(2)の各問いに答えなさい。



【仮説】
 図1の回路で実験を行ったとき、回路の中の温度センサーには、オームの法則が成り立つ。

(1)
 【仮説】が正しい場合、どのような結果が得られればよいが、最も適切なものを1つ選びなさい。

☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5	☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.0	1.5	2.0	電流の大きさ (mA)	0.5	1.0	1.5
☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5	☐ 電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.5	1.5	1.5	電流の大きさ (mA)	3.0	1.5	1.0

【出題の趣旨】

3 (1)

仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識および技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかをみる。

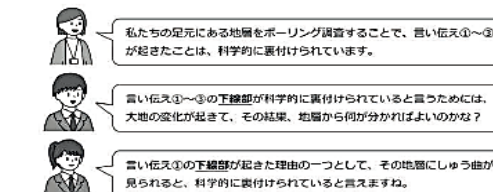
【正答率】江戸川区 35.1% 東京都 35.1% 全国 34.9%

【本区のこれからの取組】

平均正答率が国・都と同等であるが、平均正答率が低い。
 電圧と電流の意味や電圧の大きさと電流の大きさが比例の関係であることが理解できていない生徒が多い。
 理科では、結果を分析して解釈し関係性を見いだすことが重要である。関係性をグラフや表などの方法を使って視覚化するのがよいか議論したり、予想外の結果が出た時にその要因を検討させたりすることで、科学的探究を深めることができるように指導していく。

平均正答率が東京都より低い問題

8



(1)
 高い伝え①、②のうちから1つ選び、正確に起きたことを科学的に裏付けるためには、地層を調べたとき何が分かればよいが、最も適切な内容を答えなさい。
 高い伝え①、②はどちらを選んででもかまいません。

【出題の趣旨】

8 (1)

地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかをみる。

【正答率】江戸川区 34.0% 東京都 43.2% 全国 42.2%

【本区のこれからの課題】

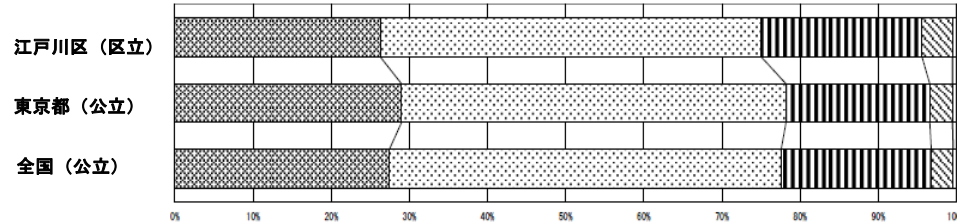
平均正答率は 34%と低く、大地の変動について時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論することに課題がある。
 授業では、知識及び技能と事象を関連付けて考察する場面を確保し、生徒が具体的に考察できるよう、資料提示方法等を工夫していく。

令和7年度 生徒質問紙調査【中学校】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

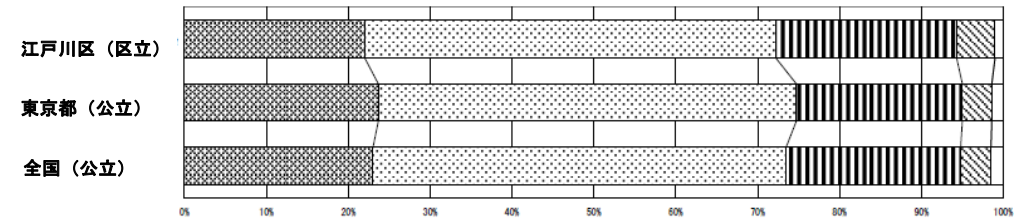
16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することとはできていますか

1. できている 2. どちらかといえば、できている 3. どちらかといえば、できていない 4. できていない



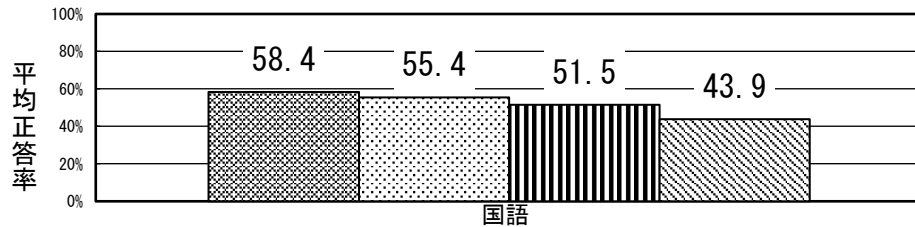
36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない その他 無回答

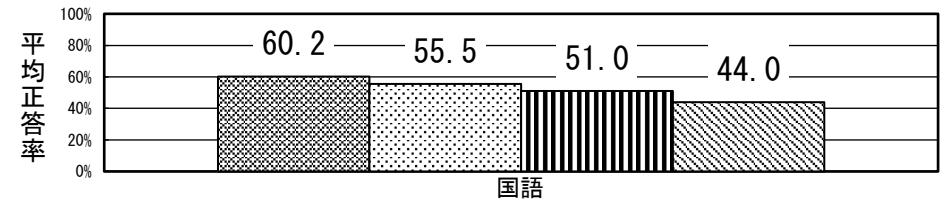


授業への主体的な取組と学力のクロス集計

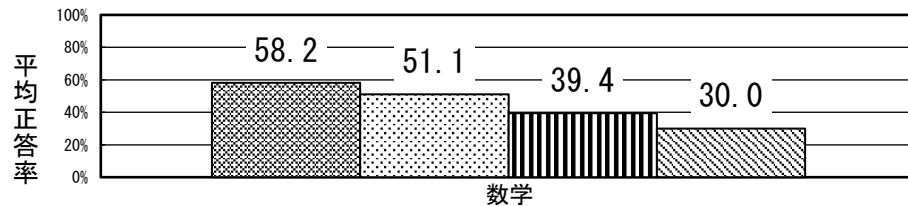
1. できている 2. どちらかといえば、できている 3. どちらかといえば、できていない 4. できていない



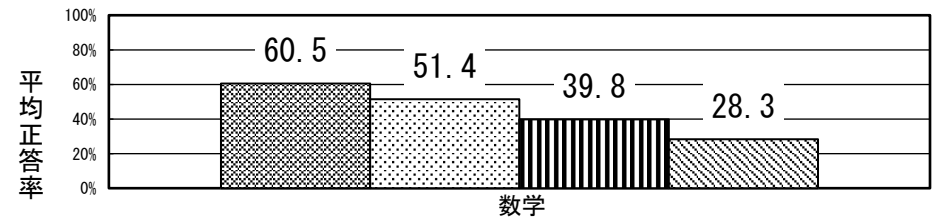
1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない



1. できている 2. どちらかといえば、できている 3. どちらかといえば、できていない 4. できていない



1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

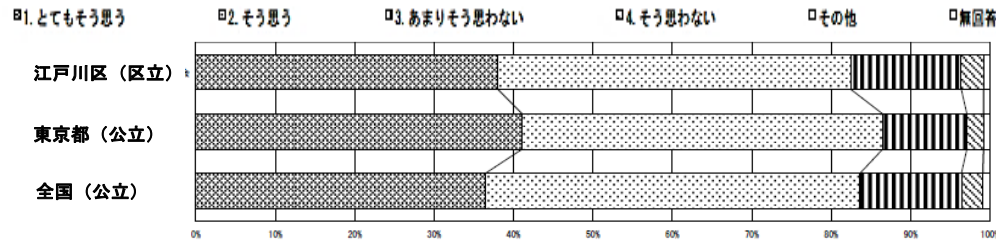


肯定的に回答した生徒の割合が都を下回っている。主体的に学習を調整できていると考える生徒の方が、そうでない生徒よりも平均正答率が高い傾向にある。ICTを活用するなどして、生徒自身が様々なデータや資料を活用しながら情報収集・整理し、自身の学習課題を自ら解決する方法を考えることができるようにしていく。また、生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設ける等、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるように授業改善を図る。

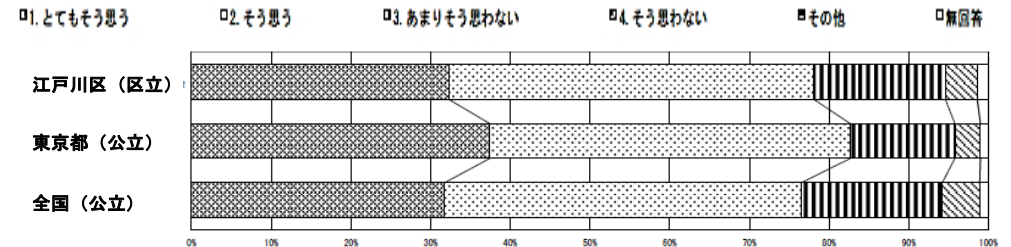
令和7年度 生徒質問紙調査【中学校】

ICTを活用した学習状況

29-1 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか

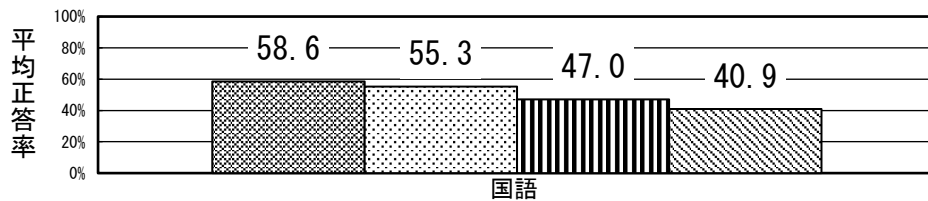


29-4 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか

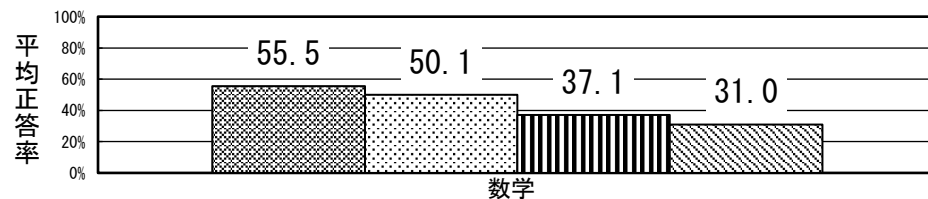


ICT活用の効力感と学力のクロス集計

1. とても思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

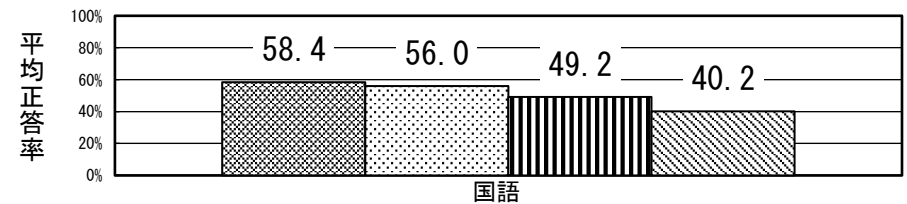


1. とても思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

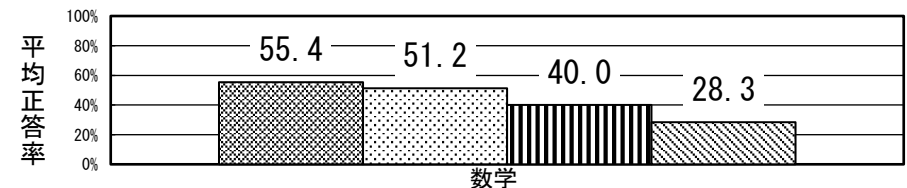


学習習慣と学力のクロス集計

1. とても思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



1. とても思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない



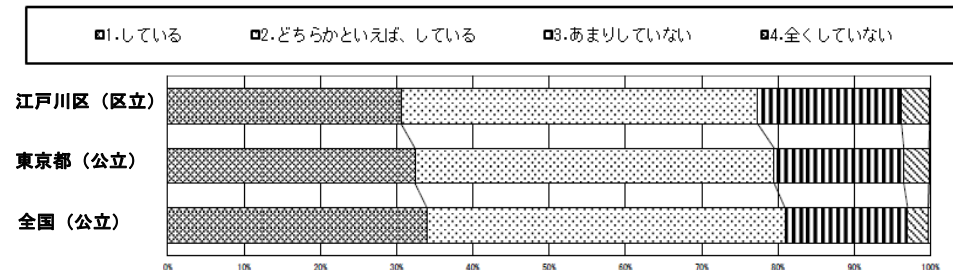
約8割の生徒が「ICT機器で文章を作成することができる」、「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」と回答している。どちらの質問も「とても思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。国語・数学とも、肯定的な回答をしている生徒の方が、そうでない生徒より平均正答率が高い傾向にある。

授業等でのICTの活用が浸透してきているが、情報整理やプレゼンテーション、友達との意見交換等の機会を充実すると共に、生徒が自身の学びの状況を理解し、学習を自己調整できるような授業実践を行うことで、更なる「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現を図る。

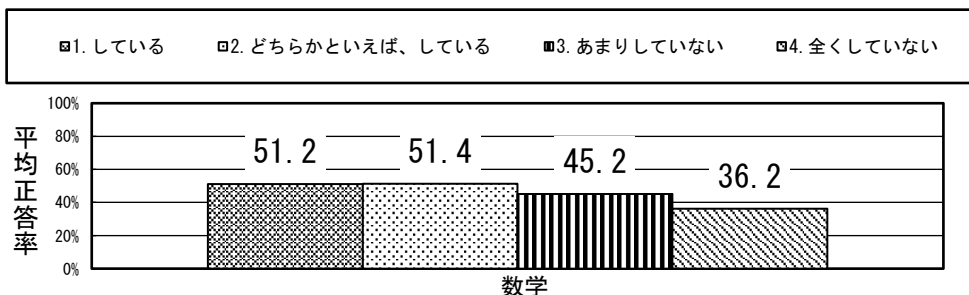
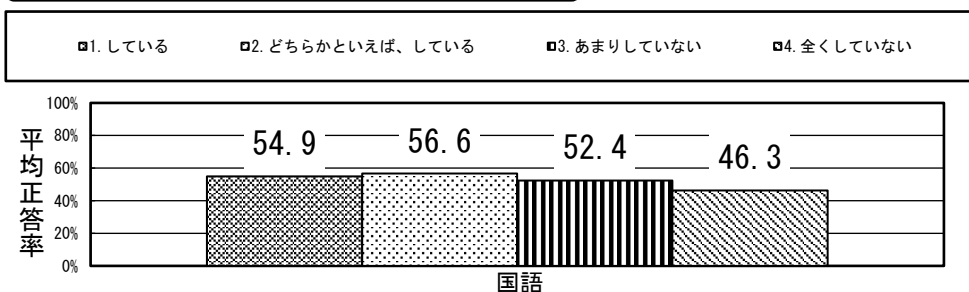
令和7年度 生徒質問紙調査【中学校】

基本的生活習慣

2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

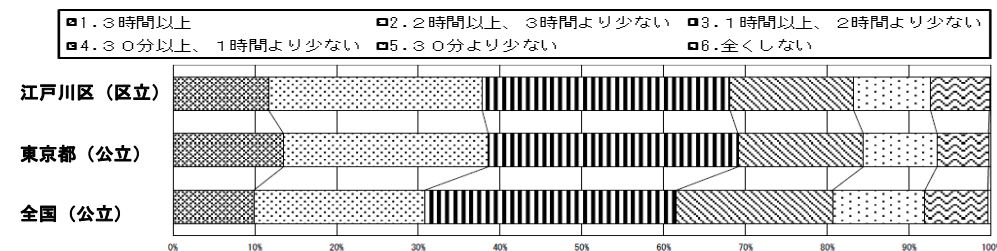


基本的生活習慣と学力のクロス集計

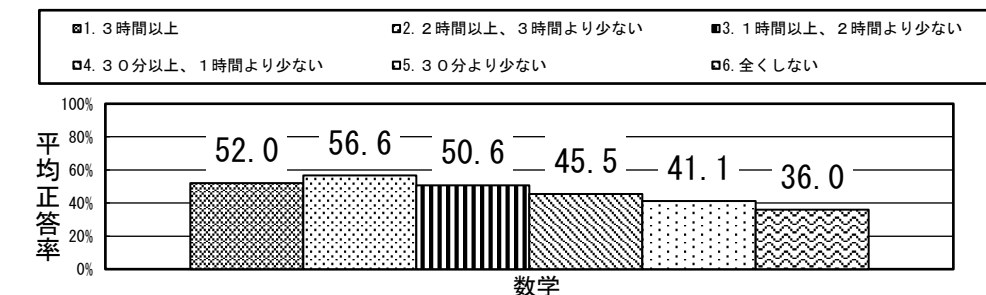
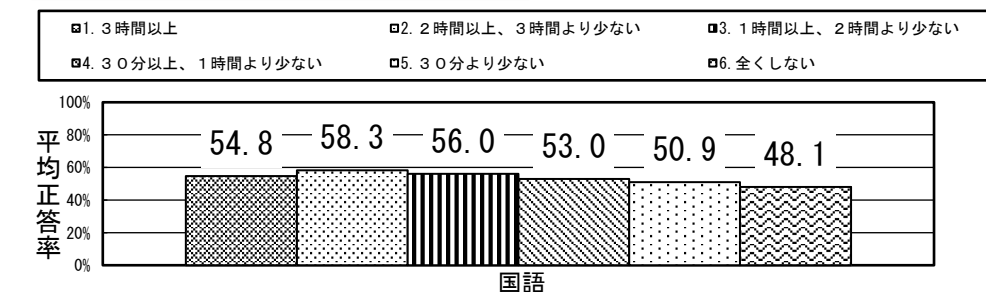


学習習慣・学習環境等

17 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネット学習を含む）



学習習慣と学力のクロス集計



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合が、全国及び都を下回っている。規則正しい生活習慣を送っている生徒は、平均正答率が高い傾向がみられる。生活習慣を整え、家庭学習の時間を確実に確保することで学力の向上に努めていく。また、学校の授業時間以外の勉強時間が「3時間以上」と回答した生徒の割合が11.7%、「2時間以上」が26.1%と、いずれも全国を上回っており、一定の学習時間が確保できていると考える。特に数学は、「2時間以上」の勉強時間を確保している生徒と、「全くしない」と回答した生徒の平均正答率が20ポイント以上開いていることから、放課後学習教室や家庭学習週間等の取組を通して、授業時間以外の勉強時間を確保していく。

令和7年度 学力向上に関わる主な取組【中学校】

○「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の策定

- ・「江戸川区立学校における学力向上に向けた取組の指針について」における論点を基に、学力向上に向けた具体的な取組を推進

○学力向上プロジェクト推進局の設置

- ・江戸川区立学校に在籍する小・中学生の学力向上に向けた諸事業を行うことを目的とし、学力向上プロジェクト推進局を設置
- ・推進局内に学力向上プロジェクトチームをおき、プロジェクトチームを中学校国語、数学、英語の3つのチームで構成

○プロジェクトチームの取組

- ・「単元別検定・総合検定」（数学）の実施
- ・EESA 英語授業力アップ講座を年間6回開催
- ・読解力向上を目指し、新聞記事を活用したワークシート教材（年間30回）を第1学年、第2学年、第3学年（前期のみ）で実施

○江戸川区学力調査の実施

- ・国語、数学、英語、学習意識調査を第1，2学年で実施

○教科アドバイザー（数学・英語）の派遣

- ・若手教員を含む教員全体の授業力向上に向けた取組を強化

○EDOGAWA STUDY SQUARE～誰一人取り残さない学習支援事業～

- ・放課後学習教室（EDOスク）を令和4年度から全校で実施

○東京方式 習熟度別指導ガイドラインに基づく効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」の推進

- ・数学、英語の授業において、効果的な「習熟度別指導」「少人数指導」を実施

○ICTを活用した協働学習の推進

- ・各教科等の授業で一人1台端末を活用し、授業改善を実施

○学校図書館の活用

- ・学校図書館の環境整備を進め、各教科等で学校図書館を活用
- ・学校図書館への区立図書館職員の全校巡回

○「読書科」の充実

- ・読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成（全校の各学年で年間35時間実施）

○電子ドリルの活用

- ・電子ドリルを活用した「江戸川っ子 study week!」の実施（各学期に1週間実施）